

平成28年度指導改善プラン

千代田区立番町小学校

達成度調査及び児童の学習状況から見た成果(○)と課題(▲)				
		第4学年	第5学年	第6学年
達成度調査結果の分析	国語	○話の内容の聞き取りや漢字・語句の知識が定着している。 ▲説明的文章の構成・展開をとらえる問題での正答率が低い。	○読み取りの力、漢字の読み書きなどの基礎基本の力が向上している。 ▲説明的文章の内容や要旨の理解について、三割ほどの児童の書く力が十分に定着していない。	○基礎学力や文法・敬語など言語についての理解知識技能が十分に定着している。 ▲文学的文章の内容や主題を理解する力が十分に定着していない。
	社会	○社会的な思考・判断・表現する力が十分に定着している。 ▲わたしたちのまちについて読み取る問題での正答率が低い。	○「社会的事象の知識・理解、地図の読み取り」の正答率が高く、定着している。 ▲「郷土をひろく」などの身近な事柄、観察・資料活用の技能が十分に定着していない。	○社会現象についての知識・理解や資料活用の技能が十分に定着している。 ▲「国土の様子(地形・気候)」の正答率が著しく低く、十分に定着していない。
	算数	○整数や分数の計算を正しく処理する技能が十分に定着している。 ▲図形領域での正答率が低い。また、活用する力が十分に定着していない。	○小数の計算、面積や角などの「数と計算」「量と測定」の領域では、技能が十分に定着している。 ▲直方体の辺の位置関係など「図形」「式による表現」の領域の内容が十分に定着していない。	○分数の計算や、面積や平面図形を正しく処理する技能が十分に定着している。 ▲小数の計算力や活用力・応用力が十分に定着していない。
	理科	○自然事象についての知識・理解が十分である。 ▲「磁石の性質」の問題での正答率が低く、内容の定着が十分ではない。	○「生命・地球」の領域において、「月と星」「季節と生物」の理解が十分である。 ▲「科学的な思考・表現」「活用」の力が十分に定着していない。	○基礎学力や観察・実験の技能の定着が図られている。 ▲「ものの溶け方」の問題では、正答率が低く内容の定着が十分ではない。
調査以外の学年の成果と課題	第一学年	○学習意欲や知的好奇心が高く、積極的に自分の意見や考えを発表する児童が多い。 ○読書活動に意欲的に取り組む児童が多く、読む力が育ってきている。 ▲話を最後まで集中して聞く姿勢が身に付いていない児童が多い。 ▲相手意識をもって話したり、書き表したりする表現力には個人差がある。		
	第二学年	○学習意欲や知的好奇心が高く、知りたいことを進んで調べ、学習に活かすことができる。 ○日々の経験をもとに、自分の考えを意欲的に表現しようとする姿勢が身に付いてきている。 ▲相手の話を最後まで聞き、意見を受け止めようとする姿勢が身に付いていない児童が多い。 ▲自分の考えたことを、順序立てて分かりやすく書いたり話したりする力の個人差が大きい。		
	第三学年	○学習意欲や知的好奇心が高く、知りたいことを進んで調べ、学習に活かすことができる。 ○自分の考えたことを積極的に、順序立てて話すことができる児童が多い。 ▲相手の話を最後まで聞き、意見を受け止めようとする姿勢が身に付いていない児童が多い。 ▲書く技能に個人差があり、筋道を立てて表現することに課題がある。 ▲読書好きの児童が多いが、読む本の内容が偏りがちな面がある。		
調査以外の学年についての成果と課題	音楽	○音楽に対する意欲や関心が高く、自ら進んで活動できる児童が多い。 ○美しく響きのある歌声の児童が増えた。リコーダーの音色がより美しくなった。 ▲技能面での個人差があり、できないことから意欲が下がってしまうことがある。		
	図工	○道具・材料を安全に使うことができ、積極的に作品に取り組んでいる。 ○自分の考えを表現するために、材料や方法を自分で選択したり考えたりして表すことができる。 ▲技術に個人差があり、進度に差が出てしまう。		
	家庭科	○学習意欲が高く、基本的な知識が身に付いている。また、学んだことを自分の生活に生かしている姿勢も見られる。 ▲調理や裁縫等を体験できていない児童もおり、個人差が大きい。 ▲丁寧に作品を作ろうとしたり、調理したりしようとする意欲が不十分である。		
	体育	○音楽を使った準備運動や体育朝会を通して、運動の楽しさを味わせたので、運動意欲が高まり、どの運動領域にも進んで取り組もうとする児童が増えた。 ○日々の授業や体育朝会、持久走大会などの取組を改善したことで、児童の総合的な体力の水準は全国平均を少し上回った。 ▲日々運動に取り組んでいる児童とそうでない児童の能力差が大きい。 ▲スポーツテストの結果から、握力とソフトボール投げの数値が全国平均よりも低く課題である。		

<p>改善の 方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力向上拠点校として、国語科、理科を基盤としながら読書活動を設定し、各教科・領域と関連付けながら、全教師による継続的な授業改善を展開し、考えを深める学習態度を養う。 ・返事・挨拶・後始末の基本的な生活習慣を身に付けさせ、他者のために力を尽くす番町の子の育成を目指す。 ・学力調査等の結果を踏まえ学校、学年、学級の傾向をつかみ、学力テストで間違えた問題の復習プリントや東京ベーシックドリルを活用して、個に応じた指導を行う。
<p>改善の 取組</p>	<p>第一学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流を増やし、相手意識を高め、話し合う力の向上を図る。 ・見たり触れたり、人と関わったりする活動を多く取り入れ、体験からの気づきを増やす。 ・自分の考えを説明したり、文章に書いたりできるよう、学習過程に表現活動を取り入れる。 ・個々の習熟状況を捉え、一人一人に応じた手立てを工夫する。
	<p>第二学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して話したり聞いたりできるよう、対話の活動を効果的に取り入れる。 ・教師モデル文を提示し、書くことに苦手意識がある児童も見通しをもって活動に取り組めるようにし、伝えたいことを順序立てて分かりやすく書く力を育成していく。 ・日々の生活や学習活動の中で相手のよさに気付いたり、認めたりする場を意図的に設ける。 ・個々の習熟状況を適切に把握し、個に応じた指導を工夫する。
	<p>第三学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア対話、グループ対話、全体対話など話し合う形態を工夫し、友達同士の意見を受け止めたり関連付けたりして話し合いができるようにしていく。 ・教師モデル文を提示する手だてを講じ、自分の考えを豊かに表現する力を育成していく。 ・読み聞かせや読書活動を取り入れ、読書の幅を広げていく。また、名詩や俳句などの音読や百人一首の活動を通して、いろいろな分野に興味をもたせ、読書の幅を広げていく。
	<p>第四学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語では、書く力を育むために、相手意識や目的意識をもたせ、各文種にあった書き方の指導を適宜入れていく。また、説明的文章の展開や段落相互の理解に重点を置いた指導を進めていく。 ・社会では、「わたしたちのまち」の学習において、思考・判断・表現する活動や場を多く設定していく。それと同時に問題解決学習の定着を図っていく。 ・算数では、平面図形のイメージをもちやすくし、実感を伴った理解ができるように、教材や活動の工夫をしていく。また、体験活動を取り入れた指導を行っていく。 ・理科では、観察や実験を数多く取り入れた問題解決学習を行いながら、既習事項を活用する力を育てていく。
	<p>第五学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語では、説明的文章の内容や要旨の理解に重点をおいた指導を行っていく。また、書いてある内容や事実・体験を踏まえた自分の考え・感想を書く場面を多く設定していく。 ・社会では、観察・資料の活用之力、身近な郷土に関する生活を日常生活と関連付けながら意図的・計画的に授業の中で指導していく。 ・算数では、図形の単元において、直方体の辺などの位置関係を捉えることに重点をおいた授業を展開していく。また、式の意味を考えたり、問題を作ったりする学習を取り入れていく。 ・理科では、観察・実験後の考察、科学的な見方や考え方を伸ばす学習を多く取り入れていく。また、生活との関わりを意識させるようにする。
	<p>第六学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語では、説明的文章の内容や要旨の理解、文学的文章の主題や心情を理解させる指導を行っていく。また、既習の漢字や語句の復習も行っていく。 ・社会では、日本の国土の地形や気候のようすについて、資料を根拠として社会的事象の意味に迫る指導を行っていく。 ・算数では、小数の計算を中心とした既習の計算を復習する。また、既習事項をもとにした問題解決を少人数で指導することによって、活用力・応用力の育成を図る。 ・理科では、技能を高めた観察や実験での理解を図りながら、ワークシートで知識の定着を図る。また、話し合い活動により、科学的な見方や考え方を伸ばす指導を行っていく。
	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽は意欲を持続できるように、個の技能や能力に応じた教材（苦手な児童には簡易楽譜など）を提示する。また、必要に応じて個別指導や講師の先生の力を借りて支援していく。加えて、ペア学習やグループ活動を取り入れ児童同士の関わりの中でお互いを認め合うことができる場を設ける。
	<p>図工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた題材設定を行い、児童の豊かな発想につながるような題材提示を行う。また児童が自分で考えて素材や表現を選べるような学習環境にする。 ・一斉指導、グループ指導、個人指導を状況に合わせて行い、技術のベースアップを目指す。また児童同士での関わり合いの中から学び合えるような活動を設定する。
<p>家庭科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能面で身に付けさせたいことについては、分かりやすく提示し、めあてを明確にもたせる。 ・授業で学んだことを家庭でも実践できるように、家庭との連携を図る。 ・体験活動を多く取り入れた授業展開をする。 	
<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ものを握る』『腕で支える』などの握力・腕力を伸ばす運動や、ボールを投げる運動を授業や体育朝会を通して、数多く経験させていく。 ・系統性を意識して指導計画を立て、各学年で身に付けるべき力を確実に定着できるようにする。 	
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での研究授業や研究発表会での実践を通して検証する。 ・日々の授業において、言語活動の充実を各教科・領域で行い、検証する。（週案簿の活用） ・学校評価を通して検証する。 ・次年度の全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査、達成度調査を通して検証する。

